

# 侵襲を伴う処置の安全管理 に向けて

佐久総合病院での試行

# 医療の特性

- ◆病気という“不具合”を有し、常に変化しており、しばしば予測を越えた異常事態が突発する患者を対象とする。
- ◆品質管理、工程管理の手法をそのまま適用することが難しい。
- ◆標準化、斉一化が簡単ではない。

# グループワークの手順

1. チームの結成（数名）
2. グループワークの準備（1～2名）
  - a. プロセスの洗い出し
  - b. 合併症の洗い出し
  - c. 頻度・重大さの評価・スコア化
  - d. 合併症防止のための遵守事項の記述
3. グループワーク（数名）
4. 標準手順・研修指導計画の作成

# チーム結成の要件

- 院内のエキスパートで構成されること
- 5～10人位の構成
- 自由に発言できる雰囲気
- 対立・葛藤大歓迎
- リーダーシップによるサポート

# 鎖骨下静脈穿刺の安全管理WG

- ・ 診療部長
  - ・ 副診療部長
  - ・ 救命救急センター一部長
  - ・ 救命救急センター医長
  - ・ 救命救急センター医師
  - ・ 総合診療科医長
  - ・ 総合診療科医師
  - ・ 外科医長
  - ・ 内科医師（ICD）
  - ・ 安全管理対策室看護師長
  - ・ 病棟師長
  - ・ 救命救急センター看護師
- ※計12名

# グループワークの目的

- ◆ 熟練者が経験を通じて蓄えた**暗黙知**を記述された**形式知**とすることにより、皆が共有できる知的資源とする。
- ◆ 安全性に配慮した**標準手順**を確立する
- ◆ **根拠**のある合併症防止策を立案し、侵襲を伴う医療行為の安全性向上に向けた行動予定を作成する。







# ワークシートに要求される条件

- 作業し易いこと
- 見やすい表であること
- 根拠に基づくこと (referenceを示す)
- 標準手順が示されていること
- 改善に向けた行動予定に繋がること

# ワークシートの作成手順

1. プロセスフローを左端のセルに縦に書き出す
2. 起こりうる合併症を上端のセルに横に並べる
3. 各合併症の頻度・重大さを記入する
4. 作業項目毎に合併症防止のための確認事項・  
確認方法を記述する
5. 総合的遵守事項をまとめる
6. 標準手順・研修指導計画をまとめる

# WGメンバーの感想

- フローを書き出すプロセスは研修医教育に有用、この手順を意識しただけでもミスが減るのではないか。
- 細かすぎて脇道が多く、考えなければならない希な事象が多すぎる。
- スコアリングの根拠・基準の明示が困難。
- 有用性を検討するためには経験的・直感的な方法とこの手法の結果を比較する必要がある。

# 対策を周知・徹底するためには

- ◆ 「やりなさい！」ではだめ
- ◆ 「これはいいですよ」だけでもだめ
- ◆ 「じゃあやってみよう」と思えるように
  - 情報を共有し
  - 根拠を明示し
  - 議論を重ね
  - くり返して必要性を訴える
- ◆ 研修医教育から始める(最初が肝心)
- ◆ 中心となる人材をピックアップ
- ◆ リーダシップによるサポート